

医師の給料が引き下げられているようだ。この問題に勤務医も開業医もない。私は、最近あちこちで医師の給料を安くしようとする動きがあることを強く感じている。診療報酬改定という国家全体の問題でも、医師の報酬を下げようとする企てがあることは皆さんもご承知のことと思うが、医師の時給ベースの報酬についても引き下げようとする動きを強く感じるのである。時給はその職業の労働価値の相場である。我々にとって看過できない

問題なのである。私は、自院の診療をしながら非常勤の職にも就いている。最近、この非常勤職の報酬が突然に大幅減額された。あまりに一方的で医師を蔑ろにしていると思えない対応にたいへん憤りを感じた。同僚医師も怒ってはいるが、集団としての力がなく元に戻すことは期待できない。

我が国では、「医師は清貧であるべき」という価値観がある。だから医師はいまだに自分の給料の交渉などは下品なことと考え、尻



医界サロン

医師が安くなっている

広報委員 黒岡 正之

込みをする。支払う側は、これをうまく利用している。例えば医師の報酬の交渉が行われる場面があったとしても、医師一人対組織となることが多く、もちろんそこにスポーツ選手のように交渉代理人がいるわけでもなく、多勢に無勢である。そうは言っても、今までは先輩医師達の努力や患者さんのご理解などで、医師の相場はなんとか保たれていた。しかし最近では、医師が自分の報酬についてあまり言及しないことをいいことに、医師の給与を下げようと虎視眈々と狙っている組織や業界がある。このままでは清貧も濁ることになるかもしれない。心配である。

そういえば、最近の若い医師の中には、自分の専門科を選択する時に、仕事内容より収入のことを第一に考える人達が多いらしい。私はそれを聞いた当初は、けしからんことと短絡的に思ったが、よくよく考えてみるとその背景には医師の報酬の地盤沈下があるのかもしれない。我々は、このような周囲の動き

を敏感に察知して、自身の報酬について正当な主張をしていかななくてはならない。しかし実際には、医師一人が声を上げるだけではうまくいくはずがなく、集団としての力が必要だ。だから日本医師会や各地域の医師会が尽力しなければならない。その存在意義の大きな一つであろう。

診療報酬改定に関心を寄せるだけではなく、医師の給与相場の下落にも注目すべきである。若い世代の医師達やこれから医師を目指す人々のために、医師の正当な報酬を守り、さらに相応な向上を目指す。これにより優秀な人材が確保され、世界に誇る日本の医療を維持できることとなり、患者さんが最大の恩恵を得ることにつながる。毎日、患者さんの命のことを思いながら、自身の命を削っていく。こんな職業の報酬までを削ろうとする勢力があることを、我々医師と医師会は、もっと強く認識すべきである。